

市民活動推進事業に対するコメント概要

事業名	心音（ココロオト）の恩送り～第3回今治発Brave Heart楽団チャリティコンサート～						
実施団体名	一般社団法人 Brave Heart楽団						
事業概要	<p>【事業目的】 障がい（発達障がい含）や病のある子もない子も、音楽のバリアフリーを掲げて共に活動する中で、差別や偏見のない共生社会の実現を今治市から波及させる。また保護者や共感する大人たちによるネットワーク作りにより、当楽団の理念を広め、誰もが住みやすいまちづくりに繋げていくことを目的とする。</p> <p>【事業内容】 昨年度助成頂いたコンサート活動を更にレベルアップさせ、子ども達が主体的に考えた音楽劇を作り上げるとともに、参加体験型のコンサートを構成し、11月24日に波方公民館大ホールを会場として第3回チャリティコンサートを行った。また、コンサート前に当楽団保護者やフリースクール主催者、今治市手をつなぐ育成会会長などをパネリストとして、誰もが住みやすいまちづくりのトークセッションを行い、市民の皆様とともに共生社会について考える場を設けた。</p>						
事業の発展性	今年度（R6年度）から始めた福祉施設慰問コンサートを今後も増やし、継続していきたい。また、今治市の主催するイベントや福祉団体主催のイベントなどに積極的に参加し、団員の達成感や自己肯定感を高めていきたい。令和7年度も第4回チャリティコンサート（11月予定）開催に向けて、練習を積んでいくが、より子ども達の主体性を重んじて、子ども達が自ら取り組みたい演目、内容を作り上げていけるよう、サポートしていきたい。						
補助額	市補助額	500,000 円	総事業額	903,779 円	補助対象経費	813,530 円	
コメント	実施団体	<p>＜事業を実施しての効果＞ 第1部のトークセッションで、市民の皆様とともに「多様性社会」について様々な角度から語り合うことができたことが大きな成果であると感じた。今治市が住みよいまちであるために「格差・分断」のない社会を目指す、良いきっかけとなる話をし合えたのではないかと考える。</p> <p>また、第2部のコンサートでは、吹奏楽・器楽演奏、コーラス、音楽劇、ダンスと幅広い活動を披露することができ、子ども達も親（大人）も達成感を得て、自己肯定感が高まったのではないかと考える。</p> <p>＜事業を実施しての問題点＞ 昨年度までオンライン配信が上手くいかなかった反省を踏まえて、今回会場を変更したのに、会場の立地条件によりやはりオンライン配信に向かず、断念した。事前調査が不十分であった。また、会場が500人収容の大きさに対して、集客は100人程度であった。</p> <p>＜問題点に対する解決策＞ 昨今のSNSによる効果は非常に大きく、今後の活動を周知させていくためには、オンライン配信は欠かせない要素となってくるので、専門的知識のある人に参加してもらうようにしていきたい。また、地域での行事、福祉施設の行事、施設慰問などを活用し、当楽団の活動を継続し広めていきたい。</p>					
	市民活動推進委員	<p>（1）公益性 ・障がいの有無にかかわらず、より広く市民の方が参加・周知できるようになるとなおよい。</p> <p>（2）自発性 ・練習等も熱心に行われており、熱意が感じられる。</p> <p>（3）費用対効果及び継続性 ・今後のオンライン配信の構築が課題。</p> <p>（4）団体の評価 ・福祉施設や教育機関等の各種関係団体と連携して、更なる団体の普及・発展を期待したい。</p> <p>（5）事業の効果 ・障がいの有無に関わらず、事業を通して関わり、共に活動を行い達成感を得られたこと、多様性社会を共有できたことに意味があったのではないかと思う。今後もこのような場、機会を大切にしていってほしいと思う。</p>					

市民活動推進事業に対するコメント概要

事業名	心音（ココロオト）の恩送り～第3回今治発Brave Heart楽団チャリティコンサート～
実施団体名	一般社団法人 Brave Heart楽団
市民活動推進委員会	<p>コ メ ン ト</p> <p>市 民 活 動 推 進 委 員 会</p> <p>＜総評＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客数110名と多くの動員ができ、集客の意味ではよかったです。 ・多種にわたるプログラムを作成するのは大変なご苦労があったと思った。 ・昨年度より来場者は増加しているが、更に活動を市民に知ってもらうには、高校や地域の文化祭等に参加すれば効果が上がるのではないか。また、他団体との合同練習等交流をすれば、お互いの理解が深まり、差別や偏見のない共生社会へ向かうのではないか。 ・ボランティアでの運営とのことで、地域・教育・行政などがまとまって、ホリスティックな世界を創りたい、という熱い思いが伝わってきた。